

横須賀観光資源の特徴と第二海堡ツーリズムとの相乗性に関する考察

野口 孝俊¹・野中 美貴子²・阿部 貴弘³

¹正会員 国土交通省 関東地方整備局港湾空港部（〒221-8436 神奈川県横浜市中区北仲通5-57）
E-mail: noguchi-t83ab@mlit.go.jp

²学生会員 日本大学理工学研究科まちづくり工学専攻（〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11-2）
E-mail: csmi18006@g.nihon-u.ac.jp

³正会員 日本大学理工学部まちづくり工学科（〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-11-2）
E-mail: abe.takahiro@nihon-u.ac.jp

2019 春、第二海堡上陸ツーリズムが本格的に開始されるにあたり、ツーリズムのもたらす地域活性化や横須賀市内の観光資源への影響が期待されている。本稿では、横須賀市の観光動向実態を分析し、第二海堡上陸ツーリズムがもたらす観光資源影響との相乗効果をケーススタディし、横須賀市観光振興に対する考察を行ったものである。

Key Words : *infrastructure tourism , sea fort no.2 of tokyo bay, yokosuka Attractions, synergism*

1. はじめに

現在、国土交通省が中心となり社会資本ストックの活用として「大胆な社会資本の公開」としてインフラツーリズム¹⁾が推進され、国内観光客の増加と今後のインバウンドの増加のために各種の施策を展開している。この取り組みの一環として「第二海堡上陸ツーリズム推進協議会」が平成 30 年 3 月に設立され、明治から大正期に東京湾に建設された「第二海堡」上陸ツアーに対して民間旅行業者が企画するプランが進められている。

横須賀市は「横須賀市観光立市推進アクションプラン 2017 年度」²⁾（平成 29 年度～平成 33 年度）を策定し、幾つかの目標と施策を計画している。中でも「日本遺産ルートミュージアム」³⁾と銘打ち、観光資源を連携させることで観光客を集客させる取り組みを企画している。このアクションプランでは、「第二海堡」を観光資源とした検討は含まれていない。そこで、新たに第二海堡上陸ツアーを組み入れ既存資源との相乗効果を見込めれば、一層の観光資源活性化が促進されと考えられる。

インフラツーリズムが観光資源としてどのような形で影響するのか、更に地域振興にどの程度寄与するかについての検討は、インフラツーリズム事体が始まったばかりであり研究事例が少ない。今般、同時並行に進めている「東京湾アクアライン」や「首都圏外郭放水路」については、民間旅行業者が見学を実施しているが現場見



写真-1 第二海堡上陸トライアルツアーの状況
（2018. 10. 15 東京湾口事務所撮影）

学のみが行われており、地域振興の域には踏み込んでいないのが現状である。

本稿では、初めに、横須賀市の観光的な魅力や各観光資源の価値を見極める必要があるが、この材料としては、前述の横須賀市観光立市推進アクションプラン 2017 年度」の情報を分析した。次に、その動向を基礎データとして、横須賀市が第二海堡上陸ツーリズムに対する市民意見を把握するために実施した講演会の際に行ったアンケート結果を踏まえてツーリズムへの期待度とインパクトを推察した。更に、観光消費額の増加を図るべく、第二海堡と地域観光資源との相乗効果を考察した。

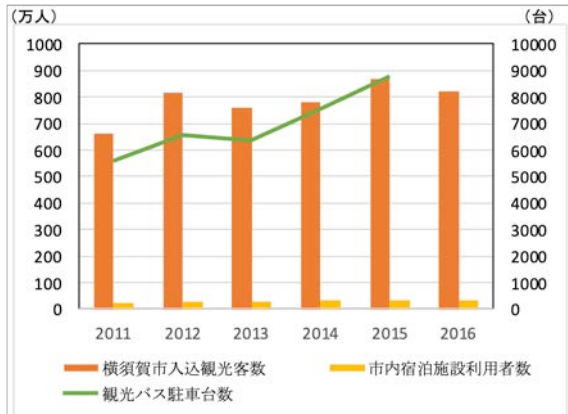


図-1 横須賀市への観光客入込実績

表-1 横須賀市主要観光施設等の状況 (平成 29 年)

分野	名称	来場者数 (万人)	近くの鉄道駅 (京浜急行)	沿岸部
施設	三笠公園	195	横須賀中央駅	○
	ヴェルニー公園	123	横須賀中央駅	○
	観音崎	90	浦賀駅	○
	ソレイユの丘	65	三崎口駅	○
	くりはま花の国	40	久里浜駅	○
	うみかぜ公園	20	県立大学駅	○
	猿島	19	横須賀中央駅	○
行事	よこすか開国祭	20	横須賀中央駅	○
	浦賀まつり祭	3	浦賀駅	○
その他	東京湾フェリー	86	久里浜駅	○
	Yokosuka軍港めぐり	25	汐入駅	○

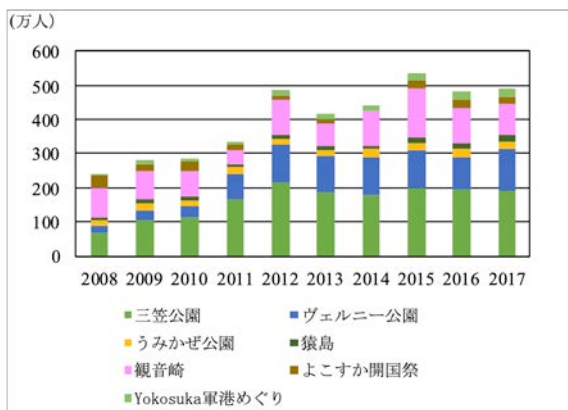


図-2 横須賀市主要観光施設の入場者推移 (施設別)

2. 横須賀市の観光資源実態分析

(1) 横須賀市観光者入込実績

横須賀市の観光客の集客数を示す資料として、平成 24 年から平成 29 年度版横須賀市統計表における市内入込観光客の動向を図-1 に示す。観光客数は 2011 年の 660 万人から 800 万人を超えたものの、大きな伸び率を示すまでには至らない。また、市内宿泊施設利用客数については 2010 年では 23 万人から微増し、2016 年では 28 万人となっているに留まっている。この要因は横須賀市が



図-3 横須賀市観光資源位置

(青字は横須賀市統計調査にない東京湾要塞施設)

首都圏観光客の日帰り可能圏内であることや、宿泊施設の供給が少ないことが主要因であると考えられる。

しかし、隣接する横浜市は 2017 年では入込客が 3614 万人、宿泊客が 462 万人、三浦半島地区全体で入込客約 1600 万人であるから、きっかけがあれば宿泊客が増加する可能性は十分にあると言える。観光客数や宿泊客数の伸び率が低いことは、観光客のニーズを捉えた戦略が十分に実行されていないことを示している。

横須賀市は鉄道網が乏しく大量輸送手段を使用した観光戦略が難しいことから、集客戦略としてバスツアーを誘致することが有望であり、そのための観光バス駐車場を増加しているが、その効果の発現は未だ少ない。

(2) 横須賀市の観光動向の特徴

横須賀市は東側に東京湾、西側に相模湾の 2 つの海に囲まれており、海に関する観光資源は多い。横須賀は、山地も多く、首都圏にありながらも新鮮な農水産物が身近に入手できハイキングやキャンプなど山の観光資源も豊富である。また、横須賀港では海上自衛隊やアメリカ海軍の艦船を間近で見ることが出来るため「観光船による軍港巡り」や米軍基地があることから「どぶ板通り商店街」でアメリカ気分を味わうことができる有力な観光資源を有している。

表-1 に 2017 年 (平成 29) における横須賀市主要観光施設等の状況を示す。調査は継続的に実施されており、主要観光施設、行事、その他に別けられている。観光客の上位は「三笠公園」「ヴェルニー公園」「観音崎 (公園)」など自然を生かした公園に観光客が訪れている。また、「三笠公園」「ヴェルニー公園」にはそれぞれ「戦艦三笠」や「横須賀製鉄所」などの歴史的な施設も整備されている。また、横須賀市の観光施設や行事はいずれも沿岸部に位置しており、「海」を観光として捉えているこ

とが特徴である。

横須賀市の主要な観光施設等における入場者推移⁴⁾を図-2に示す。また、主要施設の位置と主要駅を図-3に示す。施設は横須賀市2017年の推計値の上位施設について2008年から2017年を示したものである。2008年から「三笠公園」が連続1位で年間約200万人が来訪している、2位3位は国定公園「観音崎」と「ヴェルニー公園」が約100万人となっているが上位3か所は2012年を境に頭打ちとなっている。それ以下は20万人前後と上位3位と大きな差異がみられるが、観光地の上位が沿岸部にある「公園」であり、横須賀港沿岸の10km以内の範囲であることが特徴的である。

横須賀市に来訪した観光客の来訪目的⁵⁾について上位20位までを表-2に示す。食事・グルメが29.3%、米軍基地・自衛隊基地・艦船の見学が26.5%、街歩き・散策が23.8%と上位となっている。「米軍基地・自衛隊基地」および「Yokosuka 軍港めぐり」の観光船乗降場が「ヴェルニー公園」近辺にあり、「どぶ板通り」を含めた観光地周辺での「横須賀海軍カレー」や「ネイビーバーガー」を食する傾向が数値に顕著に表れている。祭りやイベントを目的とする割合は約6%と高くないため、街中での行事を企画することは集客として有意義な結果を生んでいないことが推測される。また、海でのレジャー（海水浴、サーフィン、釣り、潮干狩りなど）は6.3%に留まり、横須賀は「港町」の印象は強いと思われたが、海で遊ぶ場では無いことが特徴的である。

横須賀市観光マーケティング調査⁵⁾における旅行形態では個人旅行が84.8%と圧倒的な割合を占め旅行業者の主催するツアーが4.7%、グループ旅行が4.0%となっている。個人旅行が主体であるためなのか、滞在時間⁶⁾は3時間から4時間が全体の約20%であり、滞在時間が6時間以内に約90%が収まり、日帰りが首都圏客では82.5%と圧倒的な数字を示す。移動手段は自家用車が46.5%とマイカーによる気軽なトリップとして横須賀市を選択している傾向が顕著である。このことから、横須賀市の観光客を増加させ、観光消費額を増やすためには、旅行業者のツアーと宿泊客を増加させることが全体の増加に繋がるといえる。

(3) 横須賀観光資源の分析

横須賀観光資源についての認知度調査⁵⁾から特徴を分析し表-3に示す。特徴は個人的な定性分析に留まるが、横須賀市観光の特徴は「軽薄短小」に集約していると考えられる。軽薄短小とは日本の製造形態を表現する言葉「より軽く・より薄く・より短く・より小さく」を志向する考えに使われる表現であるが、横須賀市観光を端的に示していると思われる。ここでは「軽」を手軽なトリップとして鉄道に近接とし他歩く距離が近く、「薄」は施設や来訪目的として単独では観光の成立が低い(50万人未満)、「短」は滞在時間が短い、「小」は施設規模が小さい(東京ドームを目安に4万m²未満)と定

表-2 横須賀市観光地への来訪目的

来訪目的	割合(%)
食事・グルメ	29.3
米軍基地・自衛隊施設・艦船の見学	26.5
まち歩き・散策	23.8
自然観賞・散策（森林浴、紅葉など）	21.5
博物館・美術館の鑑賞	10.8
家族親戚や友人に会いに行った・冠婚葬祭・帰省	10.0
ドライブ・ツーリング（自動車、オートバイ）	9.7
パワースポット・史跡巡り	8.3
クルーズ・遊覧船	8.3
神社仏閣の参拝	8.2
ショッピング（産地直売所での食材購入は除く）	8.2
写真撮影	6.3
祭りやイベントへの参加・鑑賞	6.3
海でのレジャー（海水浴、サーフィン、釣り、潮干狩りなど）	6.3
産地直売所での食材購入	6.0
宿泊施設での滞在	3.8
農作物の収穫（いちご狩り、芋掘りなど）	3.0
温泉	2.7
アウトドア（キャンプ、バーベキューなど）	2.3
登山・トレッキング・ハイキング	2.3

義した。△印は対象者により1日滞るか短時間滞るか分かれる場合を想定した。

地域資源の特徴としては、自然を対象としたもの以外は鉄道駅からバスに乗り継ぐ必要がないお手軽な場所に位置し、1か所の規模が小さく、滞在時間は半日未満である資源が多い、そのため、観光客来訪数も50万人を超える資源は数えるほどしかない。

「三笠公園」や「どぶ板通り」は軽薄短小の特徴がよく当てはまる。遊園地やテーマパークが無いことも、地域の特徴と言える。認知度調査は全国と首都圏に分けて調査しているが、認知度ナンバー1の海軍カレーは、首都圏と全国との差が少なく、すでに知名度があることから積極的な展開をすることで集客が見込める資源といえる。一方、「観音崎公園」や「猿島」は全国では認知度が低いことからインパクトのある宣伝が必要である。今回の第二海堡上陸ツーリズムを契機とした全国拡散を行えば、この戦略は大手旅行業者を活用した全国各地発のツアー売り込みが有望である。

3. 第二海堡上陸ツーリズムが横須賀観光に与える影響

(1) 第二海堡上陸ツーリズムの概要

第二海堡は東京湾の海上にある人工島であることから必ず渡航するための船舶を使用する。現在、同様に海上にある自然島「猿島」へは、旅行業者が定期船を運航している。渡航乗降場所は明治時代に活躍した戦艦三笠が配置されている「三笠公園」に隣接しており、「第二海堡」への渡航も可能な状況にある。第二海堡へはこの乗り場から運行時間が約30分程度であるが、運行途中には「猿島」や東京湾の

表-3 横須賀市観光資源の認知度と特徴

地域資源名	施設分類	沿岸部若しくは海上	認知度			特徴				第二海堡と期待される相乗効果
			首都圏	全体	全国との差異	軽 鉄道駅から乗継ぎが不要	薄 観光客50万人未満	短 半日未満	小 4万㎡未満	
よこすか海軍カレー	食	—	51.0	47.7	-3.3	○	—	○	○	○
ドブ板通り	食・買	—	48.0	33.5	-14.5	○	○	○	○	
観音埼灯台	自然・風景鑑賞	○	48.0	28.7	-19.3		○	○	○	○
三笠公園	見物・鑑賞	○	46.0	32.2	-13.8	○		○	○	○
猿島	自然・文化施設	○	43.5	26.0	-17.5	海上	○	△	○	◎
東京湾フェリー	自然・風景鑑賞	○	38.5	24.0	-14.5	海上		○	○	
世界三大記念艦「三笠」	見物・鑑賞	○	36.0	29.5	-6.5	○		○	○	○
観音崎公園	自然・文化施設	○	32.5	19.5	-13.0			△		◎
ペリー公園	見物・鑑賞	○	28.0	25.8	-2.2	○	○	○	○	
YOKOSUKA 軍港めぐり	見物・鑑賞	○	27.0	26.0	-1.0	海上	○	○	○	○
横須賀スタジアム	見物・鑑賞		23.5	28.7	5.2	○	○	○	○	
ペリー記念館	見物・鑑賞	○	19.0	20.5	1.5	○	○	○	○	
長井海の手公園 ソレイユの丘	遊ぶ		19.0	9.0	-10.0			△		
ヨコスカネイビーバーガー	食・買	—	18.6	17.7	-0.9	○	—	○	—	○
ヴェルニー公園	見物・鑑賞	○	17.5	14.7	-2.8	○		○	○	
横須賀芸術劇場	見物・鑑賞		15.5	11.2	-4.3	○	○	○	○	
うみかぜ公園	遊ぶ	○	15.5	15.3	-0.2		○	○		◎
くりはま花の国	自然・風景鑑賞		15.5	8.5	-7.0		○	△		
海辺つり公園	遊ぶ	○	15.0	11.5	-3.5	○	○	△	○	
ヴェルニー記念館	見物・鑑賞	○	12.5	9.7	-2.8	○	○	○	○	
横須賀産農産物	食・買	—	12.5	6.8	-5.7	—	—	—	—	
よこすかポートマーケット	食・買	○	11.0	10.7	-0.3	○	—	○	○	
横須賀産水産物	食・買	—	10.0	6.8	-3.2	—	○	○	—	
田浦梅の里	自然・風景鑑賞		9.0	5.7	-3.3	○	○	○		
荒崎公園	自然・風景鑑賞	○	9.0	4.8	-4.2		○	△		
観音崎自然博物館	見物・鑑賞	○	9.0	7.7	-1.3		○	○	○	○
横須賀美術館	見物・鑑賞		8.5	10.2	1.7		○	○	○	
津久井浜観光農園	食・買		7.5	4.5	-3.0		○	△		
すかなごっそ	食・買	○	6.5	3.5	-3.0		○	○	○	
YY ポート横須賀	食・買	○	6.0	4.0	-2.0	○	○	○	○	

主要な航路である中ノ瀬航路を航行している巨大なコンテナ船、タンカー、米軍艦船など様々な船舶を直近に見ることが出来るため、十分に非日常的な時間を過ごすことができる観光資源である。更に、第二海堡は千葉県埋蔵文化財包蔵地に登録された明治期のコンクリート製の砲台跡や煉瓦で建築された掩蔽壕が残されており、街中では見ることが出来ない異様な光景が広がる場所を歩くことができるツアーとなっている。横須賀市は「東の軍艦島」と称して観光資源として PR しているが、長崎県長崎市端島(軍艦島)は近代化産業遺産ツーリズムに対して、第二海堡は灯台など航路監視施設を配置した社会資本であり、埋蔵文化財包蔵地であることからインフラ・ヘリテージツーリズムといえる。

(2) 第二海堡ツアーの観光ポテンシャル

a) 講演会における市民の反応

横須賀市は「第二海堡上陸ツアー」の関心度を図るため講演会を実施した。「第二海堡」は西の軍艦島とのキャッチフレーズで企画された講演会であったが、満席状況となり、市民の関心度やツーリズムに対する地元関係

団体の機運は上昇しつつあることが確認された。講演会は地元横須賀市民以外の方が35%を占め、兵庫県や三重県等の遠方者も聴講した。アンケート調査では、上陸希望者は97%を占め、積極的に第二海堡の情報提供をした方が良いとの意見が多く寄せられ、感心が高いことが確認された。

また、講演会に先立ち、同日に横須賀市が主催した「第二海堡クルーズ」(上陸せず外周を周遊するコース)を乗船料500円で募集をしたところ、定員50名に対して380名もの応募があり、7.6倍の競争率となった。別途、横須賀市内にある旅行者にヒアリングしたところ、年に2度ほど第二海堡上陸はしていないが、海上から周囲を回遊する「第二海堡クルーズ」を開催している。人気が高く、乗船客の盛り上がり度は高まっているという。

b) トライアルツアーの応募状況

「第二海堡上陸ツーリズム推進協議会」では時期と旅行者を限定した上陸ツアー(トライアルツアー)を実施した。トライアルツアーとは、本格ツアーが旅行者の安全性と施設を管理している国土交通省の業務の妨げに

表-4 第二海堡上陸ツーリズムのコースパターン

	特徴	集合場所	工程	計画割合
パターン1	目的地往復	現地集合	渡航棧橋集合-第二海堡-渡航棧橋	10%
パターン2	渡航地周遊附加	現地集合	横須賀駅集合-周遊地-渡航棧橋A-第二海堡-渡航棧橋A	16%
パターン3	渡航地周遊附加食事付	現地集合バス移動	横須賀駅集合-周遊地-食事-渡航棧橋-第二海堡-渡航棧橋	29%
パターン4	他地域移動周遊食事付	他地域集合バス移動	渡航地以外集合-周遊地-食事-渡航棧橋A-第二海堡-渡航棧橋A	39%
パターン5	東京湾周遊	他地域集合バス移動	渡航地以外-周遊地-食事-渡航棧橋B-第二海堡-渡航棧橋A	6%

註：計画割合とはトライアルツアーで計画された内容の比率を示したものの

ならないかを確認するための試行的なツアーである。この企画は一般公募され⁹⁾、5社31ツアーが計画された。各ツアーの予約状況は、全ツアーにおいて満席状況となり、関心度が高いことが確認できたことになる。

c) マスコミの反応

第二海堡上陸ツーリズム協議会が平成7月3日に発足し、平成31年2月までに4回の協議会を開催されたが、2018.5.24日から2109.3.6の間に第二海堡関係の新聞記事が、全国紙4社、地方紙3社から計37回掲載された。記事は地方面に掲載され、内容は協議会関係が2回、上陸ツアー関係が19回、新たな観光資源が10回、新たな食である海堡丼が5回、横須賀市と富津市の連携が1回となった。

テレビ放映については、NHK他全国ネット民法5社が、報道時間帯において7回放映されている。

新聞記事掲載回数やテレビ放映回数の多さから推測すると、報道関係者にとっても大きな影響があったことは間違いなく、これらの情報を得た国民が、第二海堡という言葉を知り、住所は横須賀市ではなく富津市であるとの情報を得たことは両方の市にとっても大きな宣伝効果をもたらしたと考えられる。特に、新聞もテレビも全国ネット局であることから、本格ツアーの開始と同時に全国各地からのツアーが組まれることも想定される。

(3) 第二海堡上陸ツーリズムトライアルツアー内容分析

「第二海堡上陸トライアルツアー」は一般公募により選定された(株)トライアングル、サンケイツアーズ(産経新聞開発(株)旅行部)、クラブツーリズム(株)、(株)はとバス、(株)JTBの5社の旅行業者により実施された。9月16日から11月25日までの間に22回実施され、上陸した人数は1,024名となった。海上への渡航基地は、横須賀が21回、木更津港富津地区が1回である。公募型企画ツアーであるため、募集人数に達した段階で受付終了となることから、申込み倍率は数値的に明確ではないが、旅行業者へのヒアリングによればキャンセル待ちや問い合わせ状況を含めて倍以上の客が待機しているとのことである。

ツアーは渡航基地港と第二海堡往復だけでなく、周遊

地として横須賀市内にある猿島砲台跡や走水砲台跡などをツアーコースに加えて、よこすか海軍カレーや海堡丼の食事付きプランを用意して、新たな地域の特色を活かしたツアー内容となっている。

ツアーは、第二海堡往復のみのパターンと周遊地を付帯した、いわゆる日帰りバスツアーが体制であるが、地域振興に寄与する観光地滞在時間では、概ね2時間~4時間となっている。また、計画された31回中23回がツアーコースに周遊地を付けた内容となっている。

トライアルツアーで実施した第二海堡上陸ツーリズムのコースを大別すると表-4のとおり5パターンとなる。

パターン1は現地集合現地解散であり、第二海堡のみに興味がある者向けとなる。周遊地や食事を付加したパターンは当然旅行代金が高くなっている。パターン5は東京駅発-富津市食事-第二海堡-横須賀市-東京駅着の東京湾一週コースとなっており魅力満載の設定である。神奈川県以外の旅行者はパターン4およびパターン5の利用が多い。パターン1のケースは横須賀市や富津市民にとって参加しやすい設定だが、第二海堡往復であるためリピートが期待できないツアーである。地元民であれば周遊地を付加するメリットは、参加金額に対して少ないことから横須賀市民の参加率が低かった。

(4) 第二海堡上陸ツーリズムが与える相乗効果の推察

第二海堡上陸ツーリズム参加者が横須賀観光する場合既存の横須賀観光資源も併せて来訪することが十分に考えられる。そこで、表-2に示した来訪目的に合わせて更に拡大する可能性について筆者の相対的な判断から表-5に記載した。相乗効果が大きいと考えられるのがA、可能性があるものをB、条件が揃えば可能性があるものをCとした。現在の来訪目的上位3位は、相乗効果が発現する可能性が高い。逆にCと想定したものは、今後の伸び率が期待出来るものとして開発すべき案件である。

特にショッピング目的に横須賀市に来訪した方は少ないが、第二海堡や日本遺産特定の土産物の開発を進めることで観光客を増加させる可能性を秘めている。

第二海堡は明治期の軍事施設であることから、軍事関係施設見学を目的とした観光客は、合わせて同時期に活躍した「戦艦三笠」や「猿島」の見学、更に、現在の軍

表-5 横須賀市来訪目的と第二海堡上陸ツーリズムから期待される効果

来訪目的	割合(%)	期待される効果	主な理由
食事・グルメ	29.3	B	駅から乗船場所までのルート上に施設あり
米軍基地・自衛隊施設・艦船の見学	26.5	A	乗船場所に三笠見学あり
まち歩き・散策	23.8	A	駅から乗船場所までのルート上に施設あり
自然観賞・散策（森林浴・紅葉など）	21.5	—	
博物館・美術館の鑑賞	10.8	C	関連企画展の実施することで相乗効果あり
家族親戚や友人に会いに行った・冠婚葬祭・帰省	10.0	—	
ドライブ・ツーリング（自動車、オートバイ）	9.7	—	
パワースポット・史跡巡り	8.3	A	関係軍事遺構が多く存在
クルーズ・遊覧船	8.3	A	猿島めぐりと同じ乗船場所
神社仏閣の参拝	8.2	—	
ショッピング（産地直売所での食材購入は除く）	8.2	C	有名な土産品が存在しない
写真撮影	6.3	A	第二海堡は注目ポイントと講演会アンケート結果
祭りやイベントへの参加・鑑賞	6.3	C	同日開催であれば相乗効果あり
海でのレジャー（海水浴、サーフィン、釣り、潮干狩りなど）	6.3	C	同日開催であれば相乗効果あり
産地直売所での食材購入	6.0	B	隣接施設有、当該場所のみで購入可能な場合

註：平成 28 年度横須賀市観光マーケティング調査結果（来訪目的）に追記

事施設である「米軍」「自衛隊」を訪れる可能性は増大する。また、第二海堡への往復の海上では、港町横須賀を感じる事が可能な海上クルーズや、海から見える東京湾の景色を楽しむことも可能となり、一つのツアーで 2 つの目的を果たせることになり、相乗効果は増大する可能性も高い。一方、イベントや海のレジャーへの参加者は目的が異なるため相乗効果は少ない。現在、横須賀市にある博物館では東京湾要塞に関する展示コーナーは無いため、この分野を目的とした増加は見込めないが、逆にコーナーの新設や長崎市にある「軍艦島バーチャルミュージアム」のようなアミューズメント的な施設が新設されれば、滞在時間も増加することが考えられる。

4. 第二海堡上陸ツーリズム地域振興策の検討

(1) 観光消費額の拡大に向けた方法

一般的に観光消費額の拡大は観光客数（人回）の増加×観光消費単価（円/人回）の上昇で示される。観光消費額は⁷⁾、交通費、宿泊費、飲食代、土産代、飲食費、入場料、その他で構成されるが、観光消費額を一気に拡大させるためには宿泊すると効果が顕著に表れる。アクションプランでは、2017 年度から 2021 年度の 5 年間で計画期間とし、観光客数を 2014 年度 785 万人から 2025 年に 1000 万人の増加、観光消費額を 386 億円から 636 億円に拡大する計画を立てている。観光客の増加は 215 万人、一人当たり消費額単価では、4917 円/人から 10000 円/人に上昇させることになる。つまり、1泊 5000 円/人を計

上させることが有効な手段となる。宿泊が必要となるためには、旅行者の日帰り可能時間を超える滞在時間を確保するか、夜間滞在が必要となるために宿泊する、若しくは早朝時間でのイベント参加の為に宿泊するなどが条件として考えられ、その状況を作り出すことが必要となる。

(2) 観光消費の拡大に向けて

a) 地元食との連携

2018 年 7 月に発足した「第二海堡上陸ツーリズム推進協議会」では、横須賀市、富津市両市が基地港として、第二海堡への運航が可能であることから、両市が連携を図ることが確認されている。第二海堡の周囲は、様々な江戸前の魚介類が採れ、この魚介類を中心に使用した井などを提供する「富津海堡井」が富津市ではフェアを開催するほどの人気食材である。そこで、地産地消を推奨している横須賀市側も地元の食材を利用した「横須賀海堡井」を開発してプロモーションを開始した⁸⁾。日本食のイメージを踏襲する食材を使用して、地方版にアレンジした情報を掲載するほうがファーストタイマーにとって安心が持てる食材の提供となり、「はずれ感」ない観光地の印象を与える。地元が期待を寄せる「地産地消」の推進も魅力は感じるが、消費量は限定的であり大きな推進力にはなることは無いと想定される。

b) 限定土産の開発

第二海堡上陸ツーリズムでは、上陸時での制約条件が設定されており、観光目的での上陸者は誓約書を提出することが必須となっている。例えば、両手が自由に動か

表-6 現在の横須賀市モデルコースと第二海堡上陸ツアーの連携

モデルコース名	ルート				時間計
横須賀ミナタリー	防衛大学校 9:40	昼食 12:00	YOKOSUKA軍港めぐり 13:00	記念艦「三笠」or猿島 14:15	約6時間
横須賀海軍グルメ	YOKOSUKA軍港めぐり 11:00	どぶ板通り昼食 (海軍カレー、ネイ ビーバーガー) 12:00	記念艦「三笠」or猿島 13:00	YYポート横須賀 お土産購入 15:00	約4.5時間
横須賀歴史散策	ヴェルニー公園 10:00	どぶ板通り 10:20	三笠公園 10:30	YYポート横須賀昼食 11:10	→
	走水水源地 13:00	走水神社 13:15	横須賀美術館 14:00	西叶神社 15:00	約6時間
修学旅行向け	浄楽寺 10:00	猿島 11:30	横須賀美術館 15:20	長居民泊 16:40	約6.6時間
第二海堡上陸ツ ーリズム	第二海堡上陸ツアー 9:30	記念艦「三笠」 12:00	どぶ板通り (海堡井) 13:00	YYポート横須賀 お土産購入 15:00	約6.7時間

註：表中の時間は滞在時間及び移動時間を考慮した時間設定したもの

表-7 観光資源としての東京湾要塞

施設名	文化財	公開状況	場所	近接鉄道駅からの距離
猿島砲台跡	2000選奨土木遺産 2015国指定史跡 2016日本遺産	公開	横須賀市猿島	京急横須賀中央駅から船舶乗降場 まで10分海上10分
千代ヶ崎砲台跡	2015国指定史跡 2016日本遺産	限定公開	横須賀市西浦賀	京急浦賀駅からバス18分徒歩12分
走水低砲台跡	都市公園旗台山崎公園内 2016日本遺産	限定公開	横須賀市走水	京急馬堀海岸駅からバス12分徒歩 8分
東京湾第三海堡構造物 うみかぜ公園内	2018神奈川県指定文化財	公開	横須賀市平成町	京急浦賀駅からバス18分徒歩12分
東京湾第三海堡構造物 夏島公園内	2018神奈川県指定文化財	限定公開	横須賀市夏島町	京急追浜駅からバス15分徒歩8分
観音崎砲台第一～四、 南門砲台跡	県立公園内（未指定） 2016日本遺産第一砲台	公開	横須賀市鴨居	京急浦賀駅からバス29分徒歩14分
三軒家砲台跡	県立公園内（未指定）	公開	横須賀市鴨居	京急浦賀駅からバス29分徒歩14分
第二海堡跡	千葉県埋蔵文化財包蔵地 登録	限定公開	富津市富津	京急横須賀中央駅から船舶乗降場 まで10分海上30分

註：バス時間は時刻表より、徒歩時間はバス停からの距離から時間を算出した

せる状況を確認するために雨傘は禁止としているので、レインコートを各自持参したり、旅行業者が安価なカッパを用意する場合もあった。そこで、渡航中船内で購入することもできる第二海堡上陸時の禁止事項を逆手に取った「第二海堡限定のレインコート」を開発し販売をすることで新たな土産品にすることも観光協会に提案したいところである。同様に、サンダルやハイヒールも禁止事項であるため、「第二海堡デッキシューズ」開発し、実用兼土産品の提供とすれば話題にもなる。このようなアイデアは実際にツアーが開始されていく段階で開発されていくと思われ、第二海堡ブランドを作り上げることで、「第二海堡通り」など街づくりに反映することも想定される。

(3) 第二海堡上陸ツーリズムによる滞在時間の増加

宿泊客の増加には、1ヶ所の滞在時間の増加若しくは複数の訪問箇所を設けること、ゆっくりと夕食を得る時間を設ける必要がある。(一社)横須賀市観光協会の旅行者向けサイト⁹⁾の中に、おすすめツアーが幾つか提案されているが、主要なコースを表-6に示す。いずれのコースも横須賀の観光資源をめぐる設定であり、年齢層や団体・個人を問わず楽しめるコースである。しかし、滞在時間は宿泊設定の修学旅行でさえも約6.6時間、人気の横須賀海軍グルメコースは約4.5時間と日帰りが可能な設定である。

第二海堡上陸ツーリズムは、往復で2.0時間のツアーである。この2時間を表-6に示した時間に合計すると8時間近くの滞在時間となり、首都圏でも遠方の方は宿泊

を検討する可能が多くなり得ると推測される。また、現在は旅客ターミナルがないため、渡航前に休憩や時間調整を行うことが出来ないが、新たにターミナルを整備して、第二海堡の紹介コーナーや土産展示販売を行えば更に滞在時間を増加することが可能となる。

渡航棧橋は、「三笠公園」隣接地から出発することから、その場所から周遊コースとして、明治期に活躍した「戦艦三笠」、隣接する太平洋戦争後に米軍に接収されたなごりである「どぶ板通り」で食事をとり、お土産を買えば、修学旅行コースと同様の長期滞在時間となる。明治期の歴史学習や横須賀グルメなど堪能可能な修学旅行と同等の宿泊コースになることも可能となる。

(4) 宿泊客増加のための新たな観光資源開発

横須賀市が観光立市として推進するためには、魅力ある観光戦略を一層推進する必要があるが、バスツアー誘致戦略では日帰りに留まり、大きな消費を生み出すことは難しい。鉄道網の発達していない横須賀市を含む三浦半島では、バスや自家用車移動に寄らざるを得ないが、遠距離から訪れる観光客をターゲットとした全国展開は有望戦略と考える。

認知度調査で、「観音崎公園」や「猿島」が全国では認知度が低いことから結果となっている。しかし、「観音崎公園」には灯台の他に表-7 のように東京湾要塞で最初に建設された砲台群が多く残されており、同時期に建設され国指定史跡に認定されている「猿島」を始めに多くの東京湾要塞施設が存在している。また、現在は海中から撤去された「第三海堡」コンクリート構造物遺構などもあり、第二海堡上陸ツアーが脚光を受けることにより、これらの施設を観光資源としてバスツアーを設定することも可能である。また、「観音崎」公園内には、砲台や灯台を繋ぐ遊歩道が整備されており、全長 5km の森林浴をすることが出来ることから体験型観光を希望する外国人には SNS 受けするスポットである。

横須賀市は、東京湾要塞を含む明治期に建設された施設を文化庁認定「日本遺産」¹⁰⁾として観光資源とする観光客増を目論んでいるが、大きな増加には繋がっていない。その起爆剤として第二海堡上陸ツアーを生かすことが可能である。

更に、東京湾海堡として第二海堡に隣接している第一海堡をツアーに組み込むことが可能であれば、滞在時間も長く継続的な観光として成立する可能性が向上すると考えられる。現在、第一海堡は不発弾処理が実施されていないことから一般人が上陸することが許可されていない。また、第一海堡周辺は水深が浅く、船舶で近づくこともできないことからクルーズや釣り船も近づくことが出来ない未知の人工島であり全くの無人島である。上陸には様々な確認行為とそのための費用も発生するため、

実現性は低い新たな観光資源として注目される日が来るものと思われる。

5. おわりに

土木計画は土木構造物を整備するに当たり、工学的な視点を持って事業計画の最適な方針や手順を検討する分野であると考えていた。そこには、利用者視点が優先すべきものであるが、昨今の社会資本のストック活用を最大限に生かすためには、観光学など他分野を考慮した視点を持って取り組みを進めることが求められる。第二海堡を始めとした「インフラツーリズム」を推進するにあたり、土木技術者は推進に向けて総合的な判断を行う必要があるが、楽しく歩ける道や美しいと思える景観などの考え方も取り入れた進め方も考慮する必要があり、共同で取り組める体制にて進めることとしたい。

参考文献

- 1) 首相官邸：明日の日本を支える観光ビジョン構想会議、
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kanko_vision/index.html
- 2) 横須賀市：横須賀市観光立市推進アクションプラン、2017年度（平成29年度）～2021年度（平成33年度）、2017.
- 3) 横須賀市：ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業に係るVR等活用業務受託事業者選定プロポーザル
https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2120/vr_ar.html
- 4) 横須賀市経済部：横須賀市統計表(平成24年度平成29年度版)
- 5) 横須賀市経済部：平成28年度横須賀市観光マーケティング調査結果（国内WEBアンケート）.
- 6) 国土交通省関東地方整備局：第二海堡トライアルツアー実施者の5社を選定しました
<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/03info/03kisyu/2018/180801dainikaiho-5sentei.pdf>
- 7) 国土交通省観光庁：観光入込客統計に関する共通基準、2013.3.
- 8) 横須賀市：幕府御膳御用の海の幸「横須賀海堡井」が初登場！第二海堡ツーリズム化に合わせたタイアップ
<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2150/nagekomi/20180912kaihoudon.html>
- 9) (一社)横須賀市観光協会：旅行者向け観光情報、
<http://yokosuka-kanko.com/travel/eat/>
- 10) 横須賀市：日本遺産認定横須賀市の構成文化財一覧、2018.3.
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8120/bunkazai/nihonisan/bunkazaiitiran.html>

(2018.〇.〇受付)